

令和5年8月21日

八戸市議会
議長 小屋敷 孝 様

建設企業常任委員会
委員長 藤 川 優 里

視 察 実 施 報 告 書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- | | |
|------------|--|
| 1 日 時 | 令和5年7月10日（月）～7月12日（水） |
| 2 視察先・調査事項 | 鹿児島県鹿児島市
（1）低地区総合浸水対策緊急事業について
（2）鹿児島市交通事業経営計画について |
| 3 調査結果概要 | 別紙のとおり |
| 4 派遣委員 | 藤 川 優 里
高 橋 正 人
日 當 正 男
三 浦 博 司
山之内 悠
前 田 由 美 |

【委員会調査報告書】

委員会名	建設企業常任委員会
派遣委員名	◎委員長：藤川 優里 ◎副委員長：高橋 正人 ◎委員：日當 正男、三浦 博司、山之内 悠、前田 由美
日 程	令和5年7月10日（月）から7月12日（水）まで
目 的	低地区総合浸水対策緊急事業および鹿児島市交通事業経営計画の取組を視察し、当市の下水道事業並びに交通施策の参考とする
視 察 先	鹿児島県鹿児島市（水道局、交通局）
視察概要	<p>1 鹿児島市水道局</p> <p>(1)調査事項：低地区総合浸水対策緊急事業について</p> <p>(2)説明者：水道局 下水道部参事 雨水整備室長 大庭 義文 水道局 下水道部 雨水整備室 係長 中村 拓史</p> <p>(3)概 要：</p> <p>①背景・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成16年、17年の台風接近により、海岸に近い低地区を中心に3度の床上浸水等の浸水被害が発生したことを背景として、被害の防止および最小化を図るため、ハード・ソフトの両面で効果的な対策を実施した。 <p>②事業認定</p> <ul style="list-style-type: none"> 浸水被害が発生した9地区のうち、甲突川左岸地区(2地区)、真砂・鴨池地区(2地区)、谷山地区(3地区)の7地区について、平成19年6月に国の下水道総合浸水対策緊急事業の認定を受けた。 残りの2地区については、補助認定の要件を満たしておらず採択されなかったが、補助の認定を受けた地区と同水準の整備を市単独事業として実施した。 <p>③取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去に浸水被害を受けた9地区、約200haにおいて、水理解析シミュレーションを実施し、低地区ハザードマップの作成や雨水ポンプ場の整備など、経済的でより効果的・効率的な浸水対策を検討した。 短期間で整備が図れるよう、雨水ポンプ場等の建設用地は、可能な限り公園等の公共施設を使用し、水路の整備についても、既存施設を最大限活用して事業を実施した。 事業の実施にあたっては、床上浸水等の被害を受けた対象地区の住民の不安を軽減できるよう、事業開始前に浸水対策の内容について説明会を実施し、施設完成後には施設の概要やポンプ場の仕組み等の説明を行う施設見学会を実施して浸水対策への取組(自助・公助等)について啓発を行った。説明会は全地区で延べ50回を超え、参加者数は1,000人以上となった。

■本事業で実施した対策

〔ハード対策〕

- ・雨水管きよ(水路)整備 水路数：9水路 延長：約1km
- ・雨水ポンプ場整備 甲突第1雨水ポンプ場など14箇所

〔ソフト対策〕

- ・低地区ハザードマップの作成
(甲突川左岸・下荒田地区ほか3地区について作成)
- ・可搬式ポンプの配備(事業期間中の浸水対策用)
- ・既存土のうステーションの拡充
- ・個人住宅雨水貯留施設等設置助成の活用促進

■総事業費

24億7千万円(補助：14億9千万円、単独：9億8千万円)

■対策の成果

- ・整備したポンプ場は、大潮などの潮位の高い日に、降雨による内水位上昇に対して正常に稼働しており、事業を行った地区において、約10年間、浸水被害が発生していない。



2 鹿児島市交通局

(1)調査事項：鹿児島市交通事業経営計画について

(2)説明者：交通局 総合企画課 主幹 中木屋 亮

(3)概要：

①背景・目的

- ・鹿児島市の自動車運送事業は、交通手段の多様化や少子高齢化の進行、民間事業者との競争激化等から、年間約5億円の経常赤字が続き、事業継続が危惧される状況であった。
- ・この状況を背景として、自動車運送事業の抜本的見直しを着実に進め、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画を令和2年3月に策定。
- ・コロナ禍収束後の新たな社会に即した事業見直し等を進め、持続可能な経営基盤の確立を図りながら、公共交通機関として、安全・安心で快適な質の高いサービスの提供を目指す。

②近年の取組内容

■自動車運送事業の抜本的見直し

- ・民間事業者へ一部路線を移譲し、事業規模を縮小。
- ・事業規模の縮小により、自動車運送事業の赤字幅が削減され、また、民間事業者との競合が一部解消されたことにより、各事業者にて運行便数の適正化や路線の効率化が図られた。

■バスロケーションシステムの導入

- ・利用者がスマートフォン等を活用して、リアルタイムでバスの運行状況や乗換情報等を多言語で検索できるシステムを導入。
- ・スマホアプリをダウンロードすることにより、バスの運行状況の簡易検索が可能。
- ・全てのバス停に二次元コードを掲示し、コードをスマホで読み込むことで簡易にバスの接近情報を把握可能。(アプリ不要)

■GTFS-JP データの提供

- ・インターネット上の地図等で市バスの経路や時刻表、運賃等の検索ができるよう、国が定めた「標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)」に準じたバス情報のデータを作成。
- ・令和2年9月から、経路検索事業者6社とGoogleへ情報提供を開始するとともに、市のホームページ上でオープンデータとして公開している。

■運賃の見直し(令和5年10月予定)

- ・大人普通運賃の制定形態及び上限運賃の改定
 - 【現行】 区間に応じて運賃を設定(120円～520円)
 - 【改正後】 運賃を均一で230円とする
- ・定期券の拡充
 - 【現行】 指定区間において自由に乗降可能
 - 【改正後】 全路線において自由に乗降可能

■クレジットカード決済の導入（令和6年1月予定）

- ・決済手段の多様化とインバウンド需要を見据え、市バスへクレジットカードタッチ決済を導入。
- ・決済の特性を活かした新サービスの導入や、窓口での定期券等の購入が不要となるよう利便性を向上し、併せて乗降前後の消費活動も含めた利用データを分析し、その結果をオープンデータ化することにより、交通データの新たな利活用を図る。

③IC乗車カード「ラピカ」について

■導入の効果

- ・平成17年4月から運用開始。（令和4年度末時点で8割の方が利用）
- ・運賃精算の簡素化、迅速化により乗客の利便性が向上。
- ・乗降実態の把握により効率的な運行体制が構築され、利用の促進に貢献。
- ・回数券の相互精算や集計業務の軽減、不正乗車の防止など業務効率化や適正運賃の収受が図られた。

■適用サービス

- ・定期券機能を付与可能、敬老・友愛パスのベースとしても使用可能
- ・ICカードの残高に積み増し(1,000円刻み)をするごとに、積み増し額の1割が残高に加算
- ・市電、市バス間の乗継の場合は60円、市バス間の乗継の場合は運賃合算額の5%を割引
- ・利用した運賃額に対して1%のポイントを付与(積み増し時に加算)

■課題

- ・システムの老朽化
- ・IC乗車カード全国相互利用サービスへの対応



所 感	<p>1 鹿児島市水道局</p> <p>平成5年8月6日に発生した豪雨災害は、道路の寸断、水道の断水等で市民生活に大きな打撃を与えた。これを受けて、鹿児島市では、公園雨水貯留施設の整備や防災マップの策定など、ハード・ソフト両面にわたり、市総合治水対策、公共下水道緊急整備事業を実施し雨水対策を講じてきた。</p> <p>加えて、平成16年、17年の台風により、海岸に近い低地区を中心に床上浸水等の浸水被害が発生したことを受けて、被害原因である潮位対策を講ずるため、浸水被害が発生した9地区について、国・県と連携し雨水管きよの延長や14箇所の雨水ポンプ場等の整備のほか、ハザードマップの作成や可搬式ポンプの配備など、ハード・ソフト両面の対策を講じ、その成果として整備以降、約10年間浸水被害が発生していない。</p> <p>当市では、東日本大震災はもとより、近年、激しい雨の降る日が頻発し、ハード面、ソフト面において浸水被害対策の強化の必要性を感じている。</p> <p>市民の生命、暮らしに直結することであり、鹿児島市の事例を参考に当市に合った対策を進めていただきたい。</p> <p>2 鹿児島市交通局</p> <p>人口減少の中、全国的な傾向として利用者の減少、運転手不足などにより、基礎自治体では厳しい事業運営に直面しているが、市民の足を確保するため、将来にわたる安定的な事業継続が求められている。</p> <p>そのような中、鹿児島市では安定的な事業継続に向けて、抜本の見直しを行い、3者の民間事業者との競合を一部解消し、運行便数の適正化や路線の効率化を進める一方、市営バスの事業規模を縮小し、運送事業の赤字幅を削減している。</p> <p>近年の取組として、バスロケーションシステム、デジタルサイネージ、IC乗車カード「ラピカ」を導入し、利便性や効率性の向上に努めている。</p> <p>当市においても、鹿児島市と同様の取組に努めているところであり、ICカードデータの活用により、効果的なバス路線の再編が期待されている。</p> <p>今後は、運転手の確保や運賃体系の見直し、幹線軸以外の小規模な需要への対応、複数の交通機関をスムーズに利用できるシステムの構築などの課題解決に向けた取り組みを加速していかねばならない。</p> <p>引き続き、事業の持続可能性を探っていきながら、市民生活を支え続けていくことを期待したい。</p>
-----	--